支援プログラム（参考様式）

事業所名：ブロッサムジュニア富士見鶴瀬教室（放課後等デイサービス）

作成日：令和７ 年 2 月 1 日

法人（事業所）理念	えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるよろこび」
支援方針	・集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） ・他者のかかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 ・音楽や体操、絵本などの遊びを通して情操を豊かにします。 ・「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子様に寄り添います。
営業時間	9 時 30 分から 16 時 0 分まで
送迎実施の有無	(あり) なし

		ねらい	支援内容	具体的な活動や支援内容
本人支援	健康・生活	（a）健康状態の維持・改善 （b）生活のリズムや生活習慣の形成 （c）基本的生活スキルの獲得	**（a）健康状態の把握** 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。 **（b）健康の増進** 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自助具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。 **（c）リハビリテーションの実施** 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 **（d）基本的生活スキルの獲得** 身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 **（e）構造化等により生活環境を整える** 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	来所時に健康状態を確認します。日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替えなど）の習得を支援し、教室の日課に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。 ランドセルやカバンをロッカーや所定の場所に入れるだけでなく、使用後に元の場所に戻すよう声掛けを行う。 教室用の連絡ケースを所定の場所に出すように習慣化する。 ランドセルの中の荷物の整理ができるように支援します。 食事・整容・排泄・着脱・準備/片付けに関するプログラムを実施 ・日常生活動作及び手段的日常生活動作の獲得 ・健康的な生活リズムを身に着けるサポート（維持・改善） 睡眠、食事、排泄 ・定期的な心身の把握（毎日の観察・面談、個別活動） ・身だしなみの整え方 ・危機認知スキルの向上(疑似体験・映像・SST) ・食育(菜園体験・おやつ作り)
	運動・感覚	（a）姿勢と運動・動作の向上 （b）姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 （c）保有する感覚の総合的な活用	**（a）姿勢と運動・動作の基本的技能の向上** 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 **（b）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用** 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。 **（c）身体の移動能力の向上** 日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 **（d）保有する感覚の活用** 保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 **（e）感覚の補助及び代行手段の活用** 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。 **（f）感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応** 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	体操などを通して、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指します。 ・集団療育では製作を通じた微細運動、共同製作を行いコミュニケーションを高めるSST、カードめくりやボール投げを通じた粗大運動に取り組んでいる。 【粗大運動】姿勢・移動・体つくり・ジャンプ・ボールに関するプログラムを実施 【微細運動】つかむ・ひっぱる・ひねる・つまむ・はめる・つまむ・とおす・はる・ぬる・はめる・はる・こする・描く・切るに関するプログラムを実施 ・ストレッチや体感トレーニングなどのプログラムを実施 ・非言語（身振り/指さし/サイン/ジェスチャー） ・言語（2語文/3語文/名詞/動詞/形容詞/助詞など） ・指示理解に関するプログラムを実施 ・ 文字を読む、文字を書く、文章を表現する、事実の読み取り、行動のコントロール、感情のコントロールに関するプログラムを実施 ・感覚の特性への対応(特性に応じた感覚の導入、触覚・固有覚・前庭覚を特に意識した運動や制作) リズム遊び、感覚教材、季節の制作、いろんな道具の使い方等 ・姿勢や運動、基本的、応用的動作能力の向上(専門職員による集団・個別療育)
	認知・行動	（a）認知の発達と行動の習得 （b）空間・時間、数等の概念形成の習得 （c）対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	**（a）感覚や認知の活用** 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 **（b）知覚から行動への認知過程の発達** 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 **（c）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成** 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。 **（d）数量、大小、色等の習得** 数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。 **（e）認知の偏りへの対応** 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。 **（f）行動障害への予防及び対応** 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。	・自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行い、気持ちを言葉で伝えるなどの手立てを練習する。 ・先の見通しを立てて順番を待つ等のスキルの定着を図り、感情のコントロール方法を学んでいく。 ・自分の気持ちと向き合う事が出来るような環境を整える。 ・イベントや外出活動を通し公共の場でのマナーを身に付ける練習する。 ・ 小集団での活動や遊びのなかで、適切な行動を習得する（認知の偏りに配慮する） ・空間、時間、数の概念など認知発達を促す環境設定(スケジュールや時間の視覚化)
	言語 コミュニケーション	（a）言語の形成と活用 （b）言語の受容及び表出 （c）コミュニケーションの基礎的能力の向上 （d）コミュニケーション手段の選択と活用	**（a）言語の形成と活用** 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 **（b）受容言語と表出言語の支援** 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行なう。 **（c）人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得** 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 **（d）指差し、身振り、サイン等の活用** 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 **（e）読み書き能力の向上のための支援** 発達障害のお子さまなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 **（f）コミュニケーション機器の活用** 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。	・興味や発達段階に合わせて、職員が意図を理解し応答しながら、遊びややりとりを通じて人への関心を広げる。 ・表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、実際にものを見たり触れたりしながらことばの理解を深める。 ・ゲーム等を通じて楽しくことばを学べる環境を提供し、日常会話や活動で新しいことばや概念を学ぶ機会をつくる。 ・集団活動を通して他者に対して自身の欲求を伝えることが出来るよう言語表現する環境を設ける。 ・文字を読む・文字を書く・文章を表現する・事実の読み取り・行動のコントロールに関するプログラムを実施 ・挨拶や場面に合った言葉使い、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 ・コミュニケーション手段の活用(SST・発表する機会の提供・ロールプレイ)
	人間関係 社会性	（a）他者との関わり（人間関係）の形成 （b）自己の理解と行動の調整 （c）仲間づくりと集団への参加	**（a）アタッチメント（愛着行動）の形成** 人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 **（b）模倣行動の支援** 遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 **（c）感覚運動遊びから象徴遊びへの支援** 感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 **（d）一人遊びから協同遊びへの支援** 周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 **（e）自己の理解とコントロールのための支援** 大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。 **（f）集団への参加への支援** 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	・事前に視覚的な手掛かりを使って丁寧に説明し、安心して集団活動に参加できるよう支援する。 ・少人数での活動を通じて、社会性の向上を促す。また自分や他人の感情を理解し、適切に表現できるよう、職員がモデルを示す。 ・グループでの協力やコミュニケーションを促す活動を通じて、他者との関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てる。 ・ 遊びの場面では、職員が関わりながら、人との交流を楽しめるようサポートする。 ・遊びを通じて、社会性を育む機会を提供し、職員が遊びに参加しながら行動やことばのモデルを示す。 ・勝敗にこだわらずに参加できるように支援する。 ・協力して目標を達成できるように支援する。 ・ 集団スキル・学校生活・地域生活・社会的スキルに関するプログラムを実施 ・ 小集団・集団での遊びやゲームを通して人との関わり方や接し方を学ぶ ・社会体験や地域交流の場を設ける（菜園体験など） ・自己理解、他者理解への支援(SST・社会体験・個別療育)

家族支援	・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を送迎時(お迎え時)や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・６ヶ月に1回程度、モニタリングとは別で面談の機会を設け、保護者に共有していきます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。 ・指導後のフィードバックや保護者面談を通じてお子さまの発達状況や支援のニーズの確認 ・お子さまとの関わり、兄弟に関すること等の様々な不安や困りに寄り添い、相談や助言を行います。	移行支援	・事業所での様子を他事業所や相談支援に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校への送迎時、先生と学校での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。 ・ 地域交流の機会を提供することで、集団への参加・適応する力を養う
地域支援・地域連携	・関係機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連携会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担に関して協議します。 ・各関係機関の情報を基に、具体的な場面での関わり方や、困りごとに関しての提案やポイントを共有します。 ・セルフプランの方には利用計画のコーディネートの中核を担う事業所の開催する会議に参画し、情報共有を行います。 ・地域の方から畑を借り、野菜の植え付け・収穫体験を行い食育に対する支援を行います。	職員の質の向上	ブロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・身体拘束適正化研修 ・感染症対策研修 その他 児発管ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施
主な行事等	・季節の行事（野菜の植え付け収穫体験、クリスマス会、夏祭り、ハロウィンなど） ・近隣施設や公園への外出活動		